

全学モジュール科目案内

テーマ名	14-B10 暮らしの中の科学		
テーマ責任者	坂口 大作	責任部局	工学部
対象学部	医学部・歯学部・環境科学部		
趣旨	<p>身の回りの自然や人間が作り出してきたモノの成り立ちや振る舞いを正しく理解することは、現代文明社会の中で生きる私達にとって極めて重要です。自然の複雑さと単純さにはっと気づいて、自然の偉大さや美しさに感動を覚えた経験はありませんか？自然界の原理や法則を巧みに利用することで、人間はこれまでにいろいろなモノ(人工構造物)を作り上げてきました。先人の偉大さには本当に頭が下がります。一方で、自然やモノはときとして災いをもたらすこともあります。自然や科学技術の限界や危険性を正しく認識しておく必要があります。</p> <p>数理科学や自然科学は、自然の本質を見抜くために、自然をいかに抽象化し、いかに近似するかを模索する学問です。一方、工学は、それらの成果を巧みに利用して人間社会に役立てるための学問です。真理探究心とモノづくりの欲求は、人間の本能であり、人間が人間たるゆえんであり、人間が生きる活力そのものとも言えます。数理科学、自然科学、工学は、謙虚な姿勢で自然を見つめ、自然を正しく認識し、真理を見抜く目を養うための非常に大切な学問です。</p> <p>本テーマでは、高校において修得しておくべき数理科学と自然科学の内容を、大学(での)教育の視点から多面的に意味づけ再整理した上で、科学的な思考法と方法論の基礎を学び、身の回りの社会や先端科学技術と数理・自然科学との関わりを理解することを目的および教育目標としています。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数理科学の基礎を理解し、身の回りの情報科学を説明できる:科目 I a「暮らしの中の情報科学」 ・物理の基本を理解し、身の回りの構造体や機械の動作を説明できる:科目 I b「暮らしの中の物理」 ・原子・分子の構造と性質を理解し、その振る舞いを説明できる:科目 I c「暮らしの中の化学」 ・関心をもった数理・自然科学の知識と技能を活用できる:科目 II a～ II e ・教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす ・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける 		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>数学、物理、化学、生命に興味のある方を歓迎します。</p> <p>共通ルール(定義)はしっかり覚える必要がありますが、それ以上の暗記は必要ありません。</p> <p>このモジュールを受講すれば、身の周りの“なんでだろう”が解決しますよ！</p>		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュール I	(I a) 暮らしの中の情報科学	工学部 藤村 誠 小林 透	身の回りの生活環境・社会における情報科学、特に情報処理に関係する数理科学の基礎を理解する。	離散数学 情報理論 符号化 ネットワーク
	(I b) 暮らしの中の物理	工学部 坂口 大作 森田 千尋	力、エネルギー、熱、流体などに関する基本法則を学び、それらを利用した身の回りのものの構造と動作原理を理解する。	構造体と力 熱とエネルギー 流体とエネルギー
	(I c) 暮らしの中の化学	工学部 村上 裕人	万物を形作る原子・分子の構造と性質を化学的、物理的見地から身につけることで、身近な物質の動作原理を理解する。	原子と分子 分子間力 化学反応 有機と高分子
モジュール II	(II a) 数学の考え方	工学部 末吉 豊	数学用語と日常用語の違い、数学におけるものの捉え方、表現法、コミュニケーションの仕方、抽象化と論理など数学的な考え方および問題解決法を理解する。	数学の用語 記号と表現 論理と集合 公理定理命題
	(II b) 電気の物理とその応用	工学部 辻 峰男	電気・磁気に関する基本法則を学び、これらを応用した身の回りの磁石、電気自動車、ダイオード、トランジスタなどを理解する。	電気回路 電磁気 モータ エレクトロニクス

(IIc) 身近な世界の物理科学	工学部 林 秀千人 小山 敦弘	身近な現象・事物から、物理の基本的な法則、物理的なものの見方・考え方、方法論などの基礎を理解する。	原理と法則 力と運動 エネルギー
(IId) 身の回りの物質	工学部 兵頭 健生	私たちの生活を豊かにしている身の回りの物質(材料)の分類と性質を理解する。これを基に、なぜこの物質がここで使われているのか?を考える。	物質(材料) 化学反応 力学・電気物性
(IIe) 生体分子の構造と機能	工学部 郷田 秀一郎 田中 修司 畠山 智充	生命機能の中枢をなすDNAやタンパク質を中心とした生体分子の構造と機能を理解し、生命とは何かを分子生物学の立場から理解する。	生命 DNA タンパク質

全学モジュールの目標キーワード、および授業編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	① 自主的探究	② 批判的思考	③ 自己表現	④ 行動力	⑤ 日本語コミュニケーション力	⑥ 英語コミュニケーション力	⑦ 基盤的知識	⑧ 環境の意義	⑨ 多様性の意義	⑩ 社会貢献意欲	⑪ 学問を尊敬する態度	⑫ 自己成長志向	⑬ 相互啓発志向	A 哲学的な切り口	B 歴史・略史を扱う	C 現代的な話題を取り入れる	D アクティブラーニングの活用
(Ia)暮らしの中の情報科学	◎	○	◎	○		○	◎			◎	◎	○	○	○		◎	◎
(Ib)暮らしの中の物理	◎	○	◎	○	○		○	○		◎	◎	○	○	○		◎	◎
(Ic)暮らしの中の化学	○	○	◎	○	○		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○
(IIa)数学の考え方	○	○	◎	○	○		◎			○	○	○	○	○		◎	○
(IIb)電気の物理とその応用		○	◎		○		○			◎	◎	○	○	○		◎	
(IIc)身近な世界の物理科学	◎	○	◎	○	○		○	○		◎	◎	○	○	○		◎	◎
(IId)身の回りの物質	◎	○	◎	○		○	○		○	◎	◎	○	○	○		◎	◎
(IIe)生体分子の構造と機能		○	◎		○		○		◎	○	○	○	○	○		◎	
◎(特に重視)の数	4	0	8	0	0	0	3	0	1	5	5	0	0	0	0	8	4
◎(重視)の数	2	8	0	6	6	2	5	3	2	3	3	8	8	8	1	0	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目